「ＣＡＴＹ」の名前は、「ＣＡｍｐｕｓ」と「ｃｉＴＹ」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。

http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

News CATY

ニュース　キャティ

２０１９年５月　第128号

発行／國學院大學
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集事務局長　矢口元晴

令和の始まりとともに

学長　平野泰樹

（四月一日就任）

五月一日、いよいよ令和の時代が始まりました。これに先立ち、四月より國學院大學の新しい執行部が発足しました。これまで短期大学部担当理事であった佐柳正三常務理事が新たに理事長に就任され、針本正行副学長が新学長に就任されました。また、橋本憲市郎法人事務局長が理事に就任され、短期大学部担当理事になられました。短期大学部にとっても、この上ない強力な執行部体制になったといえます。

短期大学部の執行部も新しくなり、新学長の下に二名の副学長を配して、研究教育のさらなる向上を目指していきます。また、滝川市との包括連携協定の下、市および経済界との連携を深めているところですが、新たに地方創生担当課長および地域活性化委員長の職を設け、地域活性化に向けての連携を強化促進していきます。

なお、國學院大學は令和三年四月に新しい学部を設置する予定で、その準備に着手しています。新しい学部が設置されれば、新学部への編入学推薦枠が設けられ、國學院大への推薦枠（現在一五六名）がさらに増えることになるでしょう。それに伴うカリキュラムの強化拡充を進めていきます。

令和とともに、國學院大學も北海道短期大学部も確かな歩みを始めています。

―新入生たちの抱負と期待―

学ぶ機会を大事に前進したい

自然に囲まれた素晴らしいところだと、滝川に来てみて第一に思いました。狐や白鳥を見ることができるのに驚き、感動しました。

将来、私は教員になりたいです。教職課程を履修し、新たな学びを吸収したいと強く心に決めています。責任感を持ち、それを実行したいです。教職の講義で「共育」という言葉を知りました。これは教えることを通し、自らも学ぶという姿勢で取り組むという意味があります。生徒との違いを認識し、生徒と同じ目線で物事を共有することの大切さを感じました。

また、「学ぶこと自体が面白い」との思いを新たにしました。例えば、『万葉集』の「母」は、私が想像していた以上に、発言力のある存在でした。現代の「母」には、料理する人や優しいなどというイメージがどうしても先行します。しかし、古代の「母」は、積極的に恋人を見定めたり、男女の仲を調整したり、逆に、男女の仲を妨げる際に大きな存在感を発揮していることを学びました。

短大部の授業は、これまで知り得なかったことを知り、自分の中から新たな考えを生み出すきっかけとなります。学ぶことはとても楽しいです。短大部で過ごせるこの機会を大事にして、前進していきます。（国文学科１年／中川奈帆）

一人の大人として成長めざす

生活面での抱負としては、まず一人暮らしについてです。18年間、親元で過ごした私は正直、初日で帰りたいと思いました。ですが、これまでまったくやってこなかった自炊に関しては、約一カ月間で上達しました。

この北海道での生活を通して私が変わりたいことは、未熟な自分を一人の大人として成長させ、生きていける術を身に着けることだと思います。

家事に関してはもちろんだし、自分の身の回りのことに関しても自分で考え、行動できるようになりたいです。そのためには何かしらのコミュニティで社会に触れる必要があると考えています。だから私はボランティアなどの地域の活動に参加していこうと思います。（総合教養学科１年／竜沢千颯）

緊張感を持って充実した生活を

國學院大學北海道短期大学部に入学して以来、私の短大生活は、毎日驚きと新たな発見の連続のように感じています。

私は生まれも育ちも北海道で、この広大な大地やきれいな空気、未だ山頂に雪が残っている山々を見ることが出来るこの地域は、とても暮らしやすい環境であると感じてきました。しかし、道外から来ている同じ学科の学生の皆さんの話から、この当たり前だと思っていた環境が他の都府県とは全然違うことを改めて実感させられています。また、これまで当たり前のようにつかってきた言葉遣いが実は北海道ならではの言い回しや方言だと気づかされるなど、色々なことを経験し、発見の連続でとても楽しく、刺激的な毎日を送れているなと感じています。

私は将来、小学校の教師になる夢の実現のためにこの短大へ進学してきました。初めは大学生活への不安もありましたが、漠然としていた自分の教師としての理想像を考えられるようになりました。

そして、入学してから4週間同じ学科の仲間やサークルとの交流を通して人との関わりが増えましたし、本格的に始まった授業では色々なことを経験し、学び、着々と自分が教職の道へ近づいていると実感できるようになりました。

これからの2年間、この緊張感とワクワクする新鮮な気持ちを忘れず短大生活を誰よりも充実させ、人として更に成長できるよう頑張っていきたいと思います（幼児・児童教育学科児童教育コース1年／村中桃香）

資格取得をめざし真面目に勉強

幼児児童教育学科幼児教育コースに入学した、1年大野鮎香です。

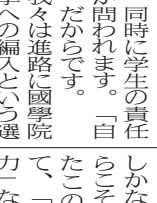
高校とは全く違う環境であり、入学式ではとても緊張しましたが、同時にこの國學院大學北海道短期大学部に入学できたことをとても嬉しく思います。少しでも早く慣れるように頑張っていきたいと思っています。

大学生活で期待していることは、授業やサークルなどで地域の方や他学科の人たちとの関わりを持つことです。ここでは、北海道の人だけではなく、全国から来ている学生も多くいるので、たくさんの人と関わりたいと思っています。他にほ、免許や資格の取得はもちろんのこと、日本文化にもたくさん触れることができるかなととても期待しています。

また、この2年間の中での抱負は、単位を落とさないように授業や試験、実習などに真面目に取り組み、資格や免許を取得していきたいと思っています。

そのほか、サークル活動などでたくさんのボランティア活動や地域活動に積極的に参加していき、前向きに取り組みたくさんの地域の方々と触れ合っていきたいと思っています。消極的で人前に出ることが苦手なので、積極的に前に進み少しでも人前に出て話すことができるようにしたいと思っています。（幼児児童教育学科幼児保育コース1年／大野鮎香）

自らの目標達成に向けて努力



大学生は自分の時間割を自分で作成します。もちろん本短大もそれは同じです。自分の学びたい事を専門的に学習できる大学ならではのシステムですが、同時に学生の責任感が問われます。「自由」だからです。

我々は進路に國學院大學への編入という選択肢があります。実際にそのことを目的に入学した者も多いと思います。しかしそれを実現するには、授業数が多いなか条件に合う成績を残さないといけません。責任感が問われるのはこの点です。

編入も就職する者も自由がゆえに、自らの目標を達成しなければなりません。それは親にも先生にも頼れません。自分で成し遂げるしかないのです。だからこそ大自然に囲まれたこの2年間を通して、「特別」かつ「強力」な経験をする必要があります。これは社会人となった後、今後何十年も生きていく上で大きな大きな強みになると思います。（総合教養学科1年／向井桂舟）

宿泊研修で友達との絆深める

新元号「令和」考える機会も

国文学科

4月16日～17日、新富良野プリンスホテルにて、国文学科新入生の宿泊研修が行われた。16日の午後に短大部を出発し、途中、富良野神社へ参拝に立ち寄った。一同の学業成就を願い、玉串をささげたあとホテルへ入り、研修が行われた。研修では、ゼミ分けを行った。その際、神道を重んじる大学らしく、結果は神のみぞ知るということで、「籤（くじ）」で所属ゼミを決めることとなり、大いに盛り上がりを見せた。

また、新元号になるということで、講演では「令和」ということばに込められた意味について考える機会も設けられた。「令和」の典拠となった『万葉集』をはじめ、往時の書物は中国を範にしているそうだ。また、「令和」の〝令〟が多義的であることも印象に残った。命令するという意味のほか、いましめや季節の行事（時令）などの意味を持つ字であることを専門的な漢和辞典で確認したことで、ニュースやネットだけでは知りえない元号への想いを私なりに持つことができた。

私たちはニュースやネットによって視野が狭められがちである。そうはならないよう、多角的な見方を身につけられるように、学生生活を有意義なものにしていきたい。（国文学科１年／田澤真子）

自分の意識を高める機会に

幼児・児童教育学科
児童教育コース

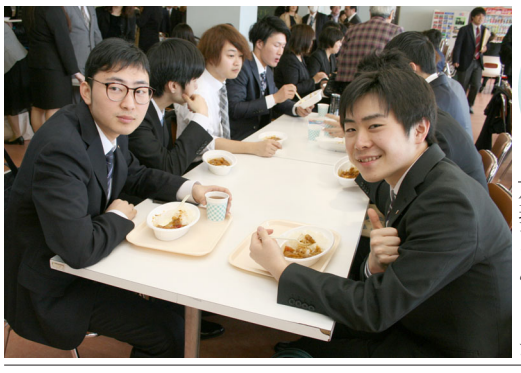
児童教育コースの宿泊研修の一環として、新十津川町の宿泊施設に行ってきました。ここでの活動目的としては、先輩方との交流や履修内容の確認などがありました。

この宿泊研修は児童教育コースならではの特色で、毎年、2学年合同で実施されています。やはり、他の学科よりも先輩方と親密になることはもちろん、この科目はここを気をつけて授業を受けた方がいいというようなありがたいアドバイスなども聞くことができ、各々とてもためになる一泊二日でした。

児童教育コースは、教師を志す人がほとんどです。自分は将来、中学校の英語の先生になりたいと思っています。そのため、國學院大學の文学部外国語文化学科に編入することを目的に、國學院大學北海道短期大学部に入学しました。このコースでは同じ目標を掲げて切磋琢磨できる仲間がいるのが強みです。その同志を宿泊研修で見つけることができ、自分の意識をより高めることができました。（幼児・児童教育学科児童教育コース1年／山中一眞）

新生活へ決意有意義な時間

総合教養学科



4月16日、新富良野プリンスホテルで行われた宿泊研修に参加しました。当日は午後1時に学校に集合し、バスでの移動となりました。私はバスの揺れに弱く、吐き気を催していたのですが、前方の席に移動して牧野先生と佐野先生の愉快なお話を聞いているうち気持ちが紛れ、なんとか無事到着することができました。

到着後の舛井先生による滝川を知るための講義は、これからの短大生活を過ごす環境について理解を図るものであり、初めて来た土地のイメージをつかむことができたように思いました。この講義を通して、私たちは短大生活をより密度の濃い時間にしようという思いがより一層高まったように思います。

また、講義後のバイキング形式の夕食では十分にエネルギーを蓄えることができました。夕食後のゼミ説明会では、各ゼミの特色を把握し、自分の興味のある分野と照らし合わせることができ、充実した時間を過ごしたように思います。

1日目はかなり密度の濃いスケジュールだったため、疲れからか私は布団に入るなりすぐに眠りに落ちていました。

2日目の午前中は、全体で授業の履修登録の確認をし、各自の課題や問題点の解決につとめました。午後からは昼食を含めた2時間の自由時間があり、富良野マルシェを中心としての富良野の街歩きに挑戦しました。

全国各地から来た多くの友達と食事をしたり話したりする機会に恵まれた宿泊研修は、滝川での生活の不安を多少なりとも解消することができるものでした。また、宿泊研修で学んだこと、そして自分なりの考えなどを忘れずに、充実した学生生活を過ごす決意を固める有意義な機会であったように思います。（総合教養学科1年／田村圭）

心も癒されたカレーパーティー

まだまだ冷たい風が吹く中、私達は國學院大學北海道短期大学部に入学しました。これから始まる大学生活に大きな緊張と不安を抱えていましたが、入学式後に家主連絡協議会の皆さんが開催してくださったカレーパーティーで、やっと一息つくことができました。

大家さんや学校の方々が準備してくださったカレーはとてもおいしく、ほかの新入生も親や友達と談笑しながら、カレーパーティーを楽しんでいる様子でした。

私は、一人暮らしを始めたばかりで寂しい気持ちもありましたが、にぎやかな空間と大家さんに言っていただいた「北海道での親代わりだよ」という言葉にすごく救われました。

入学前に抱いた不安は何も心配することはなく、これから始まる学生生活が楽しみへと変わりました。

カレーパーティーでの思い出を糧に時間を上手に使い、勉強とアルバイトをうまく両立させられるように努力していきたいです。

私の姉もこの短大で学び、國學院大學日本文化学科へと編入し今では北海道で社会人として働いております。姉のように、北海道で社会経験を積み、一生涯の経験や友人を得たいと思っております。

最後に私達のために、カレーパーティーの企画・運営をしてくださった皆さんにこの場をかりてお礼を申し上げます。（国文学科1年／菊池平姫）